

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202055		
法人名	有限会社 ティージー・サポート		
事業所名	グループホーム 伏古公園 1階		
所在地	札幌市東区伏古1条2丁目3番23号		
自己評価作成日	平成29年7月14日	評価結果市町村受理日	平成29年9月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2016.022_kani=true&JigyosyoCd=0170202055-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と日々の関わりを大切にしている。職員の意識を高める事で介護の質を上げ、入居者様の生活をより良いものに出来る様努めている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年8月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 伏古公園」は、バス停から徒歩5分ほどの閑静な住宅地に建っている2ユニットの事業所である。建物の前には広大な「伏古公園」があり、利用者は日常的に公園内を散歩して木々の花や実を楽しみ季節感を味わっている。開設14年を迎える事業所は、連合町内会の夏祭りに毎年利用者も参加して催しを楽しみ、花壇の花植え時期には近くの各施設の利用者や住民と共に作業に参加している。近所から新鮮な野菜を戴いたり、今回は高校生の個人的な体験学習を受け入れるなど地域に開かれた運営を行っている。運営推進会議では事業所の取り組みなどの報告や地域の情報を交換し、積極的に意見を運営に取り入れている。年に2回は地震も含めた避難訓練を実施している。家族の来訪頻度が高く、介護計画の意向やケアについて常に話し合い、家族と一緒に利用者の暮らしを支えている。代表者と管理者は職員の育成に熱心に関わり、毎月ユニット合同の会議で内部研修を行い、外部研修に参加した職員の報告書や資料の閲覧で共有できるように取り組んでいる。職員間のコミュニケーションは良好で、理念を意識して質の高い温かなケアを行っている。個人の誕生日に好きな料理でお祝いし、季節に応じて、流しそうめんや畑で採れた野菜で収穫祭を行うなど、楽しい食事風景を工夫して提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に、理念を読み上げ職員全員で共有し実践に繋げている。	運営理念3項目の中に、地域社会とのつながりを大切にするという内容が入っており、毎年町内会の行事に参加している。会議の中で利用者の安心と安全、尊厳のある暮らしを話し合い、理念を意識してケアにつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方々との挨拶を日々心掛けています。地域の方と交流の一環として、毎年プランター作りやサマーフェスティバルに参加をしています。	町内会の夏祭りに参加し、花壇整備には近隣の各施設と共に参加している。近所の畑で採れた新鮮な野菜類を戴くこともある。小学校の運動会を見学しているが、児童と継続的に交流する機会が可能な働きかけを考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、毎回議題を考ええ状況報告や認知症に関する事等を話せる機会を作り、地域の人々に向け認知症に対して御理解していただけるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、活動状況を報告している。	会議では町内会関係者、行政担当、家族の参加を得て地震も含めた防災対策、外部評価、介護保険制度を話題に意見を交換して充実した会議内容になっている。全家族に議事録を送付しているが、代表参加になっており、固定化した面も見られる。	年度初めに大まかなテーマ設定の年間計画を作成し、各会議の開催時にも、全家族に主となるテーマを記載した会議案内の送付を期待したい。議事録を送る際に、家族に役立つような会議資料の送付も期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話で相談したり、時には窓口に出向き協力関係を築いている。	書類提出時に電話で確認したり、直接出かけて市の担当者からアドバイスなどを得ている。困難事例がある時は行政担当者と話し合いながら解決につなげている。札幌市主催の研修会に職員も参加してケアに活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等で話し合い、内部研修を行い、知識や理解を深め、ケアに取り組んでいる。	年に2回、内外の研修で身体拘束や虐待について学び、身体拘束禁止行為11項目の理解を深めている。事例を基に拘束をしないケアを話し合い、言葉がけにも注意している。利用者が外に出たい時は意向を確認して行動を共にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	上記同様。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解している職員は少なく、学ぶ機会が必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、事務担当者で対応している。十分な説明を行い、その場で不安や疑問点を聞き御理解して頂けるよう対応をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、ケアマネ、事務担当者で対応している。職員に意見や要望等があった場合、上司に報告をし運営に反映するよう努めている。	家族の来訪頻度が高く、状態を説明する中で介護計画の意向確認やケアの提案を受けている。家族との連絡事項や意向などを詳細に記録し共有している。今後はユニット共通の記録方法を工夫し、個別の思いを更に把握したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の会議や個人面談等の機会で見聞や要望を聞き、運営に反映させている。	毎月の合同会議では主に内部研修を行い、各フロア会議に代表者も参加しながら現場の意向を積極的に取り入れている。職員は年に1回自己評価を行い、代表者と課題や要望について話し合っている。必要に応じて管理者との個別面談もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の自己評価を行っている。必要に応じて代表との個人面談を行っている。管理者が必要に応じて常に意見を吸い上げてくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最低年1回外部研修の参加をすすめている。参加職員は、報告書を提出している。会議等の場を利用し、全職員で情報を共有している。又月に1回のフロア会議では、内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市・区の連絡会に出席し情報交換をしている。職員は、外部研修等の参加を通じて同業者と交流の機会がある。勉強会や研修で得た事は、会議で発表し取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族様や、他施設の利用があった場合には、施設担当者より情報収集を行い、要望等が、あればケアプランに反映させるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様。面会時や電話連絡にて近況を報告し不足している情報収集などに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族同席のもと、代表、管理者、ケアマネと御本人様との面談を行い、情報収集をし必要なサービスの提供が、行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	疑似家族である事で共に生活を共有し、関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会時に近況を伝えている。どんな話をしていたか等も伝えるようにし、御家族の要望があれば、取り入れ共に、御本人を支えて行く関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が、訪問しやすい環境づくり、行きつけの美容室や、かかりつけ医への受診等、御家族様協力の下、関係が途切れないよう、支援している。	月に1～2回の頻度で友人が来訪し居室で談笑したり、時には近隣を散歩することもある。家族の協力でお墓参りや外泊などで近所の友人と会う機会がある。理容室の送迎で以前からの利用を継続したり、神社でお参りする習慣を支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの参加や世間話をしたり、食器拭きや、料理の下準備等の手伝いをする等、個々の得意な事を把握し利用者同士が関わり合い、支えあえるよう日々努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談・支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フロア会議で話し合い支援に努めている。	利用開始時にセンター方式で暮らしの情報を得ている。その後はモニタリングで状態を確認しているが、本人の趣味嗜好などの情報蓄積は見当たらない。	センター方式のBシートを活用して趣味嗜好の変化も追記し、利用者の現在の想いを会話に活かすような情報の蓄積を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報を参考にしたり面会時に御家族様からの情報、本人との話から得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族や関係者からの情報を参考にしモニタリングを行い、介護計画を作成している。	毎月の会議で利用者の状態を全員で把握し、3か月毎にモニタリング、評価を行い更新計画を作成している。利用者に希望や気になる点を確認し計画に取り入れている。介護計画に連動した日々の記録の書式などは検討中である。	短期目標に連動して支援内容の変化なども記載し、モニタリングに活かせるよう期待したい。また利用者ごとに、介護計画見直しの一連が分かるような綴り方の工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で日々の申し送りや、フロア会議で情報を共有しながら実践し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じ支援、サービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の学生ボランティアを受け入れたり、町内の、お祭りに参加したり、地域の方々との交流花壇作りなど楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人および御家族様希望により、かかりつけ医を受診している。場合により、御本人様の日々の様子をまとめ情報提供し診察がスムーズ受けられるよう支援している。	定期的な受診は家族が対応し、緊急性が高い場合は職員が同行して医療機関と連携している。月に2回、内科的な訪問診療も受けている。受診内容は「外来診療・訪問診療記録」で個人ごとに管理している。	

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護師が来所しており、利用者様の状況を報告・相談している。処置方法などアドバイスを頂き対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には可能な限り施設添書や薬情等の情報を医師や看護師に伝えている。お見舞いの機会を利用し経過や状況を確認し病院関係者と情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明をし同意書にサインを頂いている。御家族様の要望も聞きながら、施設で出来る事、出来ない事等の理解を含めた上で十分に説明し御納得いただけるよう対応している。	「重度化した場合における対応指針」の中に、対応が難しい内容も明記してある。状態が重度化しても口から食事が摂れる場合は、主治医、訪問看護師の指導の下で、家族と常に話し合いながら可能な限り対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え内部研修で学ぶ機会を設けている。毎年防災センターで行われる講習会にも参加し知識を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練等を実施や内部研修、外部研修参加により避難方法等、実践し身につけるよう努力している。運営推進会議等で協力を呼びかけている。	昨年度は消防署の立ち会いで夜間を想定した避難訓練を実施しているが、地域住民の参加は得られていない。年2回の訓練で地震も想定して行い、事業所内の危険な場所や避難場所を確認している。	運営推進会議で災害時における地域との役割分担を明確にし、次の夜間を想定した訓練には町内会や近隣住民の協力を得て行うことを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、御本人が何を考え何を思っているのか、何をしたいのかを考え対応をしている。	新人研修や内部研修で接遇について学んでいる。個人的なことは居室などで話をしている。申し送りは、個人名が特定できないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに声掛けをし、御本人の希望や思いを聞きだし、出来る事は尊重するように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく御本人の希望に沿えるよう支援しているが、時々どうしても職員の都合に合わせて頂いていることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で決定できる利用者様でも、季節に合った服、似合う服をすすめる事もある。定期的に床屋さんに来所して頂き散髪をしている。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ほぼ好き嫌いが無く毎食楽しみながら摂取し、後片付けも共に協力している。	誕生日は、寿司や刺身など本人の好きな献立でお祝いをしている。季節に応じて、流しそうめんや畑で採れた野菜で収穫祭を楽しんでいる。利用者と一緒に、おはぎや桜餅などを作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量共に毎回チェックし、食べやすいよう工夫し状態に応じ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし、必要に応じ介助し清潔を保っている。歯科の訪問診療により検診や口腔ケアの指導をして頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し時間誘導等を心掛けている。	全員の排泄を記録し、見守りや声かけをしながら自分で行うことができるよう行ってもらい、自立に向けて取り組んでいる。立位保持が難しい方以外は、昼夜共にトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックをしている。主治医の指示に従い下剤の使用をや坐薬を使用している。水分摂取や運動をしたり、場合により腹部マッサージを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせての入浴は、難しいが、会話を楽しみながらゆっくりと入浴していただけるよう対応している。	日曜日を予備日として、午後の時間帯で週2回の入浴を支援している。本人の希望でシャワー浴を行うこともあるが、2人で介助しながらゆっくり浴槽に入って入浴が楽しめるように工夫している。柚子湯などにもすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのパターンを把握し安眠できるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全利用者様の薬情を確認し理解・把握している。状況に応じ主治医に報告や相談をし指示を仰ぐよう努めている。		
48		○役割、楽しみなどの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事は役割分担し行い、レクリエーションや体操、散歩、外気浴等毎日の生活に取り入れるようにしている。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族様の協力により個別外出や散歩に出掛けたり外食をしている。	普段は、伏古公園に出かけたり、市民農園などを見学しながら近隣を散歩している。個別支援で喫茶店やDVDのレンタルショップに出かけることもある。季節に応じて、地域のお祭りや豊平川の河川敷、大通公園などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで管理をしている。行事や外出時に使う機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている利用者様は、好きな時に御家族様に電話をしている。希望があれば職員が電話し取り次ぐ事もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は居間で過ごす事が多いので生活感のある空間作り。室内の湿度や温度調整の管理を心掛けている。	居間兼食堂は、大きな窓に面した明るい造りで、共用空間は清掃が行き届いており清潔感が感じられる。廊下には、行事の写真や干支の貼り絵などが飾られている。鉢植えの花や食卓テーブルに切り花を飾り、季節を感じながら居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時、一人になりたい時等自由に居室の出入りをしている。共用部では気の合う仲間との会話や仲間作りを支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見慣れたもの、使い慣れたものを持参され御本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。	使い慣れたタンスや物入れ、ソファやベッド、時計などを持ち込んで使いやすく配置している。カラオケマイクやラジカセなどを持参して、趣味を継続している利用者もいる。小物類や写真を身近に飾り、落ち着いて過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人使用の物全てに名前を記入している。危険物と思われるものは、御家族様と相談し持ち帰っていただいたり、撤去する。室内履きの具合等もチェックし必要に応じ買い替えや変更をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202055		
法人名	有限会社 ティージー・サポート		
事業所名	グループホーム 伏古公園 2階		
所在地	札幌市東区伏古1条2丁目3番23号		
自己評価作成日	平成29年7月14日	評価結果市町村受理日	平成29年9月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0170202055-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年8月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と日々の関わりを大切にしている。職員の意識を高める事で介護の質を上げ、入居者様の生活をより良いものに出来る様努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りで復唱確認を行い職員で共有し実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所、公園を訪れる方々との挨拶を心掛けている。花壇作りや、夏祭りに参加し、地域の方々と交流出来る機会を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内にホーム便りを回覧している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催し利用者様の状況報告等をしている。会議の中で出された意見を取り入れ、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実情を伝えながら協力関係を築いている。電話での相談や、場合によっては窓口に出向き相談をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議の時間を利用し、年二回内部研修で、理解を深め周知徹底している。毎年交替で、市で開催する研修会に参加し更に理解を深めケアに取り組むようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上。日々防止に努めている。内部研修にて周知徹底し実施している。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の実態・必要性を学び支援するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には内容を十分説明し、不安や疑問点を確認し理解を得ている。納得した上で手続きをしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時やケアプラン説明時に要望・ご意見を聞き可能な限り要望を聞き入れ反映させている。連絡ノートを利用し、全職員で把握し反映に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の個別面談や会議の機会を利用し意見・要望を聞いてもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	内・外部研修の実施。個人面談等で思いを聞き働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の意欲を高め向上心を養えるように研修参加を勧めている。毎月の会議でテーマを決め内部研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、定期的に行われる市、区の連絡会議で、職員は、外部研修参加等で、同業者と交流する機会を持っている。研修報告も行い、全職員で、情報の共有を行い、サービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や手続きの段階で事前に情報提供をして頂き困っている事、不安な事や要望等をアセスメントし心を通わせながらケアに務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な部分、要望を受けとめ、利用者様が生活に慣れ安心できるよう努めている。ケアプランに反映させ支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時希望を受け、ケアプランに反映させて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から教わる事も多々あり、日々の生活の中で、いろいろな事を学ばせていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にとって大切な方をお預かりしている事を念頭に置き不安を取り除き、共に支えあう関係を築けるように連携をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者来所時にはゆっくり談話が出来るよう居室で過ごして頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格等を理解し、職員が仲介し他者との関係を深められるよう支援している。又定期的に席替えをし、より良い環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した方との交流は殆ど無いが必要に応じ相談や支援に応じられるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全て希望に沿う事は出来ないが、出来る事は支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や御家族の協力を得て、利用者様の状況を職員全員で把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送り等で報告し職員間で話し合い把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で状態の把握をし見直しを行っている。又、御本人、御家族の要望を聞き、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等、職員や御家族様の意見も取り入れ介護計画を作成し見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々状況が違う為、その時々合わせた対応に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に出る限り参加し社会参加の支援をし生活の質の向上を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態や必要に応じて御家族対応による受診、突発的な場合には、職員が対応し受診の支援をしている。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日の週1回訪問看護で、細やかな相談・報告をして、対応方法や処置方法の助言をして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は管理者・リーダー・ケアママネ等お見舞いに行き御家族、医師、看護師等と情報交換を行い、関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約書の作成。契約時に説明し、同意書をいただいている。病院・訪問看護と連携をとりチーム全員で支援する。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡チャート、マニュアルを作成している。年に2回内部研修で対応法を学ぶ機会を設け日々心掛けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練の実施と運営推進会議でも地域への協力をお願いしている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居時のフェースシートや御家族からの情報等、職員間で共有しご利用者様に応じた古声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ御本人が自己決定出来るよう声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間等決まっている時間は居間に来ていただくよう声掛けをする。中には居家で長時間過ごす方もレクリエーション等にお誘いをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく御自身で好きな物を着ていただくようにしているが、季節感や気温をみて職員がアドバイスをしている。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の負担にならないよう料理の下準備や、食器拭き等可能な限り行っている。食事は職員もテーブルを囲みより良い環境作りをめざしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況等で、主食量の調整を図り、こまめな水分の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほぼ確実に実施している。場合によりアドバイスや介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間のトイレ誘導やパット、リハビリパンツの使い分け等により排泄の支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便サイクルにより下剤を使用し排便コントロールをしている。又体操や廊下歩行等で排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調観察を行い、状況により曜日を変更している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個別にファイルしており、確認出来るようにしている。内部研修等で、更に理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事や日々の散歩・外気浴、レクリエーション等で気分転換や楽しみごとの支援をしている。職員自ら企画・立案をしている。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レベルの低下で外出の機会が減ってきているが利用者様の希望も取り入れ楽しんでいただく機会を設けている。御家族に協力をお願いしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的には所持していない。外出時等必要に応じて、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下は常に明るくし季節感を取り入れた壁画や、外にはベンチを置き、いつでも日光浴が出来、居心地良く過ごせるよう工夫している。廊下には行事写真を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり。談話したり思い思いの時間を過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具を持ち込まれており配置は、御家族様に任せ利用者様は、安心して暮らせるようにしている。個々に合わせた空間作りに勤めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすく内部の場所を表示している。状況にあわせ、自立を見守りし、可能な限り自立した生活が出来るよう工夫している。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム 伏古公園

作成日：平成 29年 9月 15日

市町村受理日：平成 29年 9月 15日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	2ヶ月に1度開催をしているが、ご家族様参加は、代表参加になっており固定化している。	毎回の会議に、より多くのご家族様の参加を得られる。	議事録送付時や面会時等に会議案内をし出席して頂けるよう努める。	6ヶ月
2	23	利用開始時に暮らしの情報を得ているが、本人の趣味嗜好等の情報の記入はない。	入居前、入居後の趣味嗜好の変化等が把握できるようにする。	センター方式Bシートを活用して変化等を追記していく。	6ヶ月
3	26	介護計画書と介護日誌が連動されていない。	記録の見直しをしサービス内容に沿った介護日誌にする。	介護計画に沿った介護日誌になるようサービス内容の番号を記入する。	6ヶ月
4	35	避難訓練の際、地域住民の参加は得られていない。	消防署、地域住民の方々に協力して頂き訓練を行う。	早めに日程を決め消防署や地域住民の方々が訓練に参加できるようにする。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。